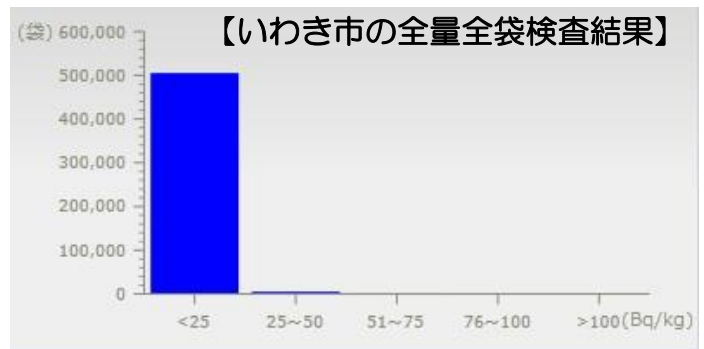


### 平成28年産米の全量全袋検査結果について

今年度で5年目を迎えたいわき市の米の全量全袋検査は、12月23日現在、500,292袋の検査が終了し、放射性セシウム濃度が基準値(100Bq/kg)を超えたものはありません。

なお、25～50Bq/kgの割合は63袋で前年より7袋減少しました。

平成29年度も安全な米の生産に向けて、以下の放射性物質吸収抑制対策を引き続きお願い致します。



＜スクリーニング検査 H28年12月23日現在＞

セシウム濃度 (Bq/kg)	<25	25~50	51~75	76~100	計
検査点数(袋)	500,229	63	0	0	500,292
割合(%)	99.99	0.01	0	0	100

### 平成29年産米の吸収抑制対策について

① 「カリ成分の基肥上乘せ施用」

カリウムは、農作物の放射性セシウム吸収を抑制する働きがあります。塩化カリを基肥に施用して、生育初期からカリウム濃度を高めましょう。

② 「濁り水をほ場に入れない」

ほ場には、きれいな水を入れましょう。大雨や洪水が発生した時は、土砂・濁水・ゴミが流入しないようにしましょう。

③ 「倒伏させない」

放射性セシウムは土に含まれているので、籾に土が付着すると玄米が汚染される可能性があります。中干し等で株元を固め、倒伏を防止しましょう。

④ 「収穫・乾燥・調製時・出荷作業時の交差汚染防止」

籾・玄米に土・ほこりが混入しないよう籾摺機・グレーダー等の農機具は使用前に念入りに清掃しましょう。また、米袋の中に土、ほこり、籾殻、ぬか・ぬか玉、虫の死骸等が混入しないよう注意しましょう。原発事故後に初めて使用する際は、籾米を籾摺機等の内部で循環させる「とも洗い」方式を推奨しています。

⑤ 「よごれの無いきれいな袋に入れる」

全袋検査は新品の袋に入れてから検査を受けましょう。

⑨やむを得ず小米やくず米に一空き袋を使用する場合は、内外の土やほこりを取り除いて下さい。また、空き袋(検査証明付空き袋)は、前年産以前の検査証明等の表示を必ず除去または抹消してから使用して下さい。

(地域農業推進課 木田)

## 冬期の鳥獣被害対策について

農林事務所に「水稻作付が終わったのに畦畔が掘削されている」などの相談があります。これは冬がイノシシの繁殖期で、栄養を蓄えるため、掘起し被害が発生しやすい季節です。農作物の有無にかかわらず被害の把握や集落の環境整備を行い、対策を立てましょう。

### ① 【電気柵】被害があるなら「通年通電」を！

イノシシ対策には「電気柵は危険」と思わせ続けることが大切です。

通電しない電気柵はイノシシにとって「ただのひも」であり、抵抗なく侵入する原因をつくってしまうので、撤去しましょう。

### ② 【環境整備】 「エサ」を取り除くこと！

収穫せず樹上で残った熟柿、野菜の残さ、生活圏からの生ゴミなどは冬期間の格好のエサとなります。これらを管理・撤去し、イノシシには「魅力のない場所」にすることが必要です。

### ③ 【狩猟】 捕獲は最後の手段！

現在は狩猟期間ですが、耕作に伴う農地への「ヒトの圧力」が減るため、実際には農地の掘削被害が拡大します。活動範囲やエサ場の変化でワナにかかりにくくなる季節なので、捕獲には地域の協力や工夫が必要です。

(経営支援課 木村)



<休耕地でのイノシシの様子>

## 高病原性鳥インフルエンザ発生予防対策の徹底について

国内の家きんで高病原性鳥インフルエンザが発生しています。万が一の発生に備え、いわき地方においても防疫演習を実施し、関係機関と連携した防疫体制の確認を行っております。家きん飼養者の皆様には、本病に対する厳重な警戒とともに、予防対策として特に以下の点の点検・確認をお願いします。

<いわき市民プール棟で実施した防疫演習のようす>



### 1. 野鳥、ねずみ等の野生動物対策として、

- ① 野鳥等の野生動物が家きん舎へ侵入しないよう防鳥ネット等の設置及び破損がないことを確認して下さい。
- ② ねずみ等小型の野生動物が家きん舎の外部から侵入し得る経路がないか、家きん舎の壁面の破損や家きん舎の屋根と壁の隙間等、家きん舎の内部及び外部から改めて詳細に緊急点検し、十分でない場合には修繕等を行って下さい。

2. 家きん舎が池などの野鳥生息地の近くにある場合には、特に上記対策を、定期的に点検・確認して下さい。

3. 家きん舎に入る場合には、ウイルスを持ち込まないよう、衣服や靴の交換や十分な消毒を行って下さい。

4. これまで以上に念入りに、飼養家きんの毎日の健康観察を行って下さい。死亡家きんが増えた等異常を見つけた場合には、いわき家畜保健衛生所（電話 0246-23-3117）に連絡して下さい。

(農業振興課 高村)

## 新規作付説明会を開催しました！

「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議」では、園芸振興を図るため、いちごと日本なしの新規栽培者や栽培希望者を対象とし、新規作付説明会を開催しました。この説明会は、11月2日に日本なし、11月16日にいちごで開催し、最新の省力栽培技術や指導体制、補助事業等の支援制度等を紹介し、新規作付けに向けて誘導を図りました。

また、現地研修として、なし園やいちごハウスを視察し、生産農家から栽培の特徴や魅力、苦労話等の説明を受けました。

参加者からは、技術習得や初期投資への不安の声や質問等も出されましたが、新たな作付けに向けた意欲ある意見も聞かれました。今後も、関係機関・団体が連携し、新たな生産者を支援し、産地の維持発展のための取組を行います。  
(農業振興課 岩野)



＜現地研修の様子＞

左：なし 右：いちご

## 東北農村青年会議福島大会が開催されました！

11月1日、2日にハワイアンズで東北農村青年会議福島大会が開催されました。本大会は日頃の農業経営や農村生活で得た知識、技術の成果をプロジェクトや意見として発表することを目的としています。東北6県から県大会で勝ち抜いた青年農業者が農業への思いを意見発表したり、新たな取組や探求心あふれるプロジェクト活動について発表が行われました。また、磐城農業高校他、6次化商品開発を行った県内の高校生も成果発表を行い、活発な意見交換が行われました。

いわき農業青年クラブ連絡協議会では、2日目の現地視察を担当し、青年クラブ会員の農場や米全量全袋検査が行われている検査場の案内を行いました。

参加者からは、「福島県産の農作物はこんなに厳しい検査を受けていることに驚いた。福島県産の農産物を応援したい。」という感想がだされました。青年クラブ会員にとって、他県の農業者と交流し、刺激を受ける良い機会となりました。  
(経営支援課 横山)



＜意見発表の様子＞



＜いわき農業青年クラブによる

全量全袋検査の説明＞

## いわき市における「人・農地プラン」取り組みについて

農業者の高齢化が進み、地域の農業を誰が担っていくのか、どのような地域にするのかは大きな課題です。これらの課題を集落内で話し合い、地域農業の「未来の設計図」となるのが「人・農地プラン」です。いわき市では、基盤整備地区を始め13地区でプランが作成されています。

今年度は中山間等直接支払制度や多面的機能支払制度取組地区等にも市、JA、地域マネージャーと連携しプラン作成について啓発活動を行いました。

その結果、新たに2地区でプランを作成する予定になりました。

「人と農地の問題」解決は、ますます重要な位置づけになります。皆さんの集落でも、是非話し合いを始めてみませんか。  
(地域農業推進課 小野里)



<担い手との事業活用打合せ>

## いわきの特産野菜「自然薯」をご存じですか？

自然薯は、渡辺・鹿島地区、及び田人地区で多く栽培されており、毎年晩秋の一時期だけ出回ります。

今年は、春夏の乾燥、秋口の高温、そして台風による大雨など、気象条件に悩まされたが、生産者の皆さんの努力の甲斐あって、11月には品質の良い自然薯が収穫されました。

独特の粘りと濃厚な風味で直売所では人気商品の自然薯ですが、いわき特産野菜として、今後も生産量拡大が期待されます。  
(地域農業推進課 石井)



<田人地区 自然薯品評会>

## 堆肥の利用促進について

いわき市内で生産・販売されている堆肥は、放射性物質検査を実施し、安全性を確認した堆肥です。

堆肥は地力を増進させ、作物の生育を安定させる効果があります。いわき市が作成した「たい肥供給者リスト」には、堆肥の入手先や成分、価格等が掲載されています。農業振興普及部や市に置いてありますので、購入したい方は「たい肥供給者リスト」を是非ご利用下さい。  
(経営支援課 横山)



<完熟でサラサラな堆肥>

## いわき農林事務所からのお知らせ

☆いわきネギ新規作付け説明会  
日時：2月8日(水) 10時~12時  
場所：ファーマーズマーケット「いがっぺ」  
申し込みは農業振興課へ電話又はFAXで

☆経営セミナー  
日時：2月上旬  
詳細は決まり次第お知らせします。